大東亜會議（調書）

外務省

目次

第一、大東亜會議開催ニ関スル帝國政府ノ方針決定ニ至ル迄ノ世界情勢判断
一、東亜ニ於ケル新秩序建設ノ過程
二、反枢軸軍ノ攻勢
三、米英世界制覇ノ野望ト大東亜結集ノ要請
第二、昭和十八年十月二日大本営政府連絡會議了解「大東亜會議開催ニ関スル件」
第三、大東亜會議開催ニ関スル帝國政府訓令
第四、招請状
第五、大東亜會議事務局
第六、大東亜會議ノ開催

外務省

REEL No. A-1211
0167
アジア歴史資料センター

一、會議次第
二、大東亞共同宣言ノ採擇
三、會議ニ於ケル日本國代表挨拶、各國代表所見及發言
（附）「アンダマン」諸島及「ニコバル」諸島ノ歸屬ニ關スル件

第一 大東亞會議開催ニ關スル帝國政府ノ方針決定ニ至ル迄ノ世界情勢ノ判斷

一、東亞ニ於ケル新秩序建設ノ過程

帝國政府ハ昭和十六年十二月八日大東亞戰爭開始以來ノ皇軍ノ赫々タル戰果ニ即應シ内外ノ政略態勢ヲ整備強化スルニ努メ中華民國ニ対シテハ昭和十八年一月九日戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言ヲ發シ日華兩國ハ戰爭完遂ノ爲軍事上、政治上及經濟上完全ナル協力ヲ爲ス旨ヲ約スルト共ニ相互ノ還付及治外法權撤廢等ニ關スル兩國協定ヲ締結シ以テ中國ノ自主獨立達成ニ全幅ノ協力ヲ爲ス旨ヲ約シ亦未鋭意且着實ニ右協定ノ趣旨具現ニ一路邁進シ來レル處更ニ十月三十日ニハ日本國中華民國間同盟條約ヲ締結シ大東亞戰爭最主

REEL No. A-1211
0168
アジア歴史資料センター

後ノ新事態ニ即應スル日華両國提携ノ新ナル基礎ヲ確立スルニ至トリ。

「ビルマ」ニ對シテハ昭和十八年八月一日「シヤン」及「カレンニ」地方ヲ除ク「ビルマ」行政府ノ管轄スル地域ヲ版図トシテ独立ヲ許容シ以テ新興「ビルマ」國ヲ建設シ更ニ「フイリピン」ニ對シテハ十月十四日同ジク独立ヲ許容シ之ヲ米國[illegible]ヨリ解放シテ同國民族多年ノ宿願ヲ達成セシメ更ニ「タイ」國ニ対シテハ帝國政府ハ既ニ大東亜戦争前ヨリ常ニ友好的関係ヲ維持セルカ戦争勃発スルヤ昭和十六年十二月二十一日之ト同盟條約ヲ締結シ以テ共同ノ敵米英ニ対スル戦争完遂ノ決意ヲ明ニシタリ。他方「タイ」國ハ日「タイ」同盟條約ニ從ヒ昭和十七年一月二十日米英両國ニ対シ宣戦セリ

爾来両國ハ緊密ニ相提携シ新秩序建設ニ邁進スル處アリタルカ、昭和十八年更ニ「タイ」國國運ノ隆盛ト繁栄ニ資スル為八月二十日「マライ」

及「シヤン」地方ニ於ケル「タイ」國ノ領土ニ関スル日本國「タイ」國間條約ヲ締結シ之ニ依リ日本國ハ「タイ」國カ馬来四州即チ「ケランタン」「トレンガヌ」、「ケダー」「ペルリス」各州及所属島嶼並ニ「シヤン」地方ニ於テ「ケントン」及「モンパン」両州ヲ其ノ領土トシテ編入スルコトヲ承認シ更ニ又新興「ビルマ」國ニ対シテハ九月二十五日「シヤン」地方等ニ於ケル「ビルマ」國ノ領土ニ関スル日本國「ビルマ」國間條約ヲ締結シ曩ニ「ビルマ」國ノ疆域中ヨリ除外セル「シヤン」及「カレンニ」地方中「ケントン」及「モンパン」両州以外ノ諸州並ニ「ワー」地方ヲ「ビルマ」國カ其ノ領土トシテ編入スルコトヲ承認シ新興「ビルマ」國ノ国礎ヲ愈々堅固ナラシメ以テ共同戦争完遂ニ資セシムルコトトセリ。

之ニ加フルニ帝國政府ハ昭和十八年六月ノ臨時議會ニ於ケル東條首相言明ノ本旨ニ從ヒ「マライ」、「スマトラ」、「ジヤワ」、「ボルネオ」、「セレベス」等ニ於ケル原住民ノ急務ニ基キ支々ノ民度ニ應ジテ原住

REEL No. A-1211
0169
アジア歴史資料センター

民ノ政治参与ニ関スル措置ヲ実施セリ。

斯ッテ敵英國多年ノ搾取ト圧政ニ呻吟スル印度ヲ見ルニ、印度四億民衆ハ大東亜戦争ヲ機トシ英国ノ極悪ヨリ脱セントスル気運頓ニ昂揚シツツアルモ、未タ英國ノ鉄蹄下ニ雌伏シ居レリ。時偶々「スバス・チャンドラ・ボース」氏ハ印度解放ノ愛國ノ熱情ト熱烈ナル敢闘精神ヲ抱イテ来朝シ、尓来昭和二十年(昭和十八年)二月三十日自由印度假政府ヲ組織シテソノ首班トナリ國民軍ヲ率ヰテ印度解放戦ニ挺身スルノ決意ヲ固ムルニ至レリ、仍テ帝國政府ハ同月二十三日同假政府ヲ兼認シ以テ之ニ全面的協力支援ヲ與フル態度ヲ明ニシタリ、而シテ大東亜各國モ亦帝國政府ノ措置ニ同調シ自ラ進ンテ同假政府ヲ兼認スルモノ続出セリ。

満洲國ニ付テハ茲ニ贊言ヲ要セサル迄ナルカ同國ハ建國ト共ニ

日本國満洲國間議定書ニ基キ日満一德一心ノ極メテ緊固ナル関係ヲ確立シ、以テ大東亜戦争勃発前後ヲ通シ終始不動ノ決意ヲ以テ東亜ニ於ケル新秩序建設ノ大業ニ参列セリ。

二、反枢軸軍ノ政勢

東亜ニ於テ新秩序カ着々トシテ具現セラレツツアル時米英両國ハ満洲事変及支那事変ニ乗ジ、事毎ニ東亜平和ノ再建ニ妨害ヲ加ヘ殊ニ支那事変ニ際シテハ重慶ニ残存スル政権ヲ支援シテ、東亜ノ禍乱ヲ助長シ剰ヘ与國ヲ誘ヒ、帝國ノ周辺ニ於テ武備ヲ増強シテ挑戦シ、更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ユル妨害ヲ與フル為経済断交ノ挙ニ出ヅ遂ニ帝國ヲ窮地ニ陥入レタリ然モ大西洋憲章ヲ聖ニ説ク状維持ノ政策即チ米英的世界秩序ノ維持擁護ヲ策シ或ハ過去ニ於ケル驕大ナル搾取ノ

REEL No. A-1211
0198
アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

REEL No. A-1211

S 17.9.0 -43

遂産ヲ基礎トスル物的重要敵カヲ背景トシテ益々戦備ヲ
完成シ以テ激烈ナル反抗ヲ増シ来リ其ノ敵カ益シ悔リ難キモノ
アリ。

即チ欧洲ノ情勢ヲ見ニ米英ノ傳統政策タル他人ノ犠牲ニ於
テ利ヲ図ラントスル政策ハ愈々露骨トナリ、「ソ」様必至ノ要
求ニモ拘ラズ来タル第二戦線(第二前線)成ノ挙ニ出ズルヲ躊躇シ居レルモ地中
海ニ於テハ米英両軍ハ勝大ナル艦艇ト航空機並ニ優カナル多数
ノ兵員ヲ擁シテ、遂ニ「チュニジア」ヲ占據シ更ニ進ンテハ「シチリア」
島ヲ陥落セシメ機ニ乗ジ勢ヲ駆ッテ一方ニ於テ「ローマ」ヲ空爆シテ
無辜ナル老幼婦女ヲ殺戮シ且歴史的文化ヲ灰燼ニ帰セシメ
以テ伊國ノ政変ヲ誘発セシメ伊国銃後国民ノ敵愾心ヲ損ス
ト共ニ他方「ムッソリーニ」首相ノ後継タル「バドリオ」政府ト内通シ
遂ニ同政府ヲシテ無條件降伏ヲ余儀ナクサシムルコトニ成功セリ。

斯クノ如ク米英カ兎モ角モ枢軸陣営ノ一角ニ上陸シ戦禍カ伊太利半島ノ南中部ニ波及スルニ至レル一方、独乙国ハ東部戦線ニ於テ第三年目ヲ迎フルト共ニ、「ソ」軍ノ死ノ反攻ハ愈々高潮ニ達シタルカ、独乙国ハ伊太利降伏ニ備ヘ其ノ欧州要塞ヲ固メ戦略的優位ノ態勢ヲ確保スル為昭和十八年ニハ例年ノ如キ夏季攻勢ヲ執ルコトナク、却テ東部戦線ヨリ逐次撤収ヲ断行シ九月末ニハ第聶ハ遂ニ「ドニエプル」河ニ到達セリ。

翻テ南亜ノ戦局ヲ見ルニ比律賓ノ戦場ニ於テハ「アッツ」島守備ノ皇軍将兵ハ寡兵能ク優勢ナル敵軍ノ攻撃ヲ撃退シタルモ遂ニ全将兵悉ク壮烈ナル最期ヲ遂ケ、更ニ皇軍ハ該般ノ事態ニ鑑ミ「キスカ」島ヨリ至難ナル情況ニ於テ天佑神助ノ下ニ一兵ヲ損セスシテ無事撤収ヲ完了スルニ至レリ。西南太平洋方面ニ於テモ敵ノ反攻ハ愈々増強整備ト共ニ益々熾烈

外務省

REEL No. A-1211
0193
アジア歴史資料センター

化シ皇軍ガ「ダルカナル」ヲ撤收スルヤ、更ニ執拗ニ北上ヲ企圖シテ止マス或ハ長駆皇軍ノ占據地域ヲ空爆シ或ハ危視乍ラトシテ帝國本土ヲ衝カントスル勢ヲ示セリ。更ニ又東南亜細亜ニ於テハ敵ハ夙ニ「ビルマ」奪回ヲ呼号シ十月ヲ以テ総反攻開始ノ時ナリト喧伝ニ努メタリ。

寔ニ戦ノ一進一退一伯一高ハ不動ニ変化シテ止マサルモ洋ノ東西ヲ問ハス戦争ハ長期化シ新秩序建設ト旧秩序維持ノ抗争ハ全面的ニ激化セリ。

三、米英世界制覇ノ野望ト大東亜結集ノ要請

米英両國ハ新クノ如ク既成ノ戦意ト豊富ナル物資力ヲ持シ乍ラ益々反抗ノ気勢ヲ昂揚シツツアル反面、彼等カ此ノ戦争ヲ戦フコトニ依テ果シテ何ヲ企図シ居ルヤハ既ニ明白ナリ。即チ

REEL No. A-1211
アジア歴史資料センター

米英両國ハ此ノ戦爭ニ勝利ヲ占ムルコトニ依リ日本ノ興隆ヲ抑圧シ惹テ「アジヤロサクソン」的世界秩序ヲ維持シ以テ東亜隷屬化ノ野望ヲ遂セムトスルニ在リ。換言スレハ大東亜戦爭ヲシテ米英両國ノ勝利ニ帰セシムルコトヲ許サンカ東亜諸民族諸國家ノ覚醒ト不断ノ發展ニ死ヲ与ヘタル鉄柵ノ内ニ彼等ノ所謂自己流ノ平和ヘ再建サレ富ト繁栄ハ專ラ彼等ノモノトナルニ反シ、「アジア」諸國家諸民族ハ再ヒ過去數世紀ノ歴史ヲ繰返シ常ニ其ノ存立ヲ脅威セラレ、其ノ安定ヲ攪乱セラレ民生其ノ本然ノ発展ヲ永久ニ抑圧セラルルニ至ルベシ誠ニ米英両國ノ懐ク世界制覇ノ野望コソハ世界ノ禍根ト謂フヘシ。

然ルニ米英両國ハ自己ノ戦爭目的ノ晦冥ヲ隠蔽セシカ為、今次大東亜戦爭ノ眞ノ意義ヲ殊更ニ曲解シ、或ハ日本ヲ以テ侵略者ナリト唱ヘ或ハ独逸ヲ以テ欧洲大戦乗発ノ元凶ナリト呼ヒ居ルモ

外務省

S 1.7.0.0 -48

一方ニ於テ日独伊三國同盟ニ示サレタル新秩序建設ノ理念殊ニ東亜ニ於ケル帝國道義外交ノ具現ハ彼等ト雖モ否定シ得サル正義ノ具現ナルト共ニ、他方ニ於テ彼等ハ大西洋憲章ソノ他戦後ノ経営ヲ企画スル一切ノ思想ニ於テ依然トシテ現状維持政策ノ殿階ヲ脱シ得ス物質文明ヲ背景トスルカヲ以テ世界君臨ノ体制確立ヲ企図シ居レリ。

此故ニ東亜ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放シテ帝國ノ企図スル新秩序ヲ建設スルコトハ啻ニ帝國ノ責任タルニ止ラス、東亜ニ於ケル諸國家諸民族ノ共同ノ責務ナリ。而シテ斯カル共同ノ責任ノ観念ハ単ニ帝國カ東亜覚醒ノ源泉タル立場ニ於テ独リ之ヲ包蔵スルニ止ラス、大東亜ニ於ケル各國カ自ラソノ責任ノ重大性ヲ悟得シ、以テ大東亜各國カ本然一体トナリ相傳リ相扶ケテ共同ノ目的達成ニ突進スル本質ヲ具有セサルヘカラス。即チ大東

外務省

S 1.7.0.0 -48

REEL No. A-1211

0194

アジア歴史資料センター

亜ノ各國カ全テ日本倒レテ大東亜無ク、大東亜ノ自覚ナクシテ日本ノ存立モ亦背成セラルベキ千古未曾有ノ重大時局ノ認識ヲ徹シ、「アジア」解放ノ為総蹶起ノ態勢ヲ整備強化トシノ據ッテ基ク理念タル道義ニ基ク斯カル態勢ノ整備強化スルモノナラサル(カラス、而シテ新秩序ハカクトモ理論的ニハ米英ノ戦争目的ノ急所ヲ衝クモノト認メラルルノミナラス、重慶ノ抗戦名目ヲ根底ヨリ覆滅セシムルニ足ルモノト考ヘサルヲ得ス。大東亜各国家各民族総力結集ノ要請ハ此故ニ生レ、此故ニ敵ノ総反攻ノ最モ激化シ来ル時ニ於テ最モ強ク要請セラルルニ至レリ。

帝国政府カ大東亜会議開催ニ関シ昭和十八年五月参謀(別紙参照)日大東亜改府連絡会議決定大東亜政略指導大綱ニ於テソノ方針ヲ明示シ更ニ十一月二日大東亜(別紙参照)政府連絡会議ヲ解トシテ本会議開催ノ時期態容ヲ定メタルハ蓋シ前記ノ趣旨

ニ基クモノナリ。

REEL No. A-1211
0195
アジア歴史資料センター

（別紙）大東亜政略指導大綱（案）昭和十八、五、二五

第一　方針

一、帝国ハ大東亜戦争完遂ノ為帝国ヲ中核トスル大東亜ノ諸国家諸民族結集ノ政略大勢ヲ更ニ整備強化シ以テ戦争指導ノ主動性ヲ堅持シ世界情勢変転ニ対応ス

二、政略態勢ノ整備ハ帝国ニ対スル諸国家諸民族ノ戦争協力強化ヲ主眼トシ特ニ支那問題ノ解決ニ資ス

第二　要領

一、対満華方策

帝国ヲ中心トスル日満華相互間ノ結合ヲ更ニ強化ス

（イ）対満方策

既定方針ニ據ル

（ロ）対華方策

「大東亜戦争完遂ノ為メ対支處理根本方針」ノ徹底具現ヲ図ル為右ニ即應スル如ク別ニ定ムル所ニ據リ日華基本條約ニ新要ノ政策ヲ行ヒ要スレバ日華同盟条約ヲ締結スベキガ為速ニ諸準備ヲ整フ

尚右ニ関聯スル共重慶和平工作ハ国民政府ヲシテ行ハシム

本方策実行ノ時機ハ別ニ定ム

二　對泰方策

既定方針ニ基キ相互協力ヲ強化ス特ニ「マライ」ニ於ケル失地回復、経済協力強化ハ速ニ実行ス

「シヤム」地方一部ノ泰国領編入ニ関シテハ「ビルマ」トノ関係

REEL No. A-1211
0195
アジア歴史資料センター

ヲ考慮ニテ決定ス

三、対伊印方策

既定方針ヲ強化ス

四、対緬方策

既定方針ヲ実行ス

五、対比方針

既定方針ニ基キ必ズベク速ニ独立セシム

獨立ノ時機ハ概ネ九・十月ノ交ト予定ス

六、其他ノ占領地諸地域ニ対スル方策ヲ左記ノ通定ム

(イ)「マライ」「スマトラ」「ジャワ」「ボルネオ」「セレベス」ハ帝国領土ト決定シ(発表セズ)重要資源ノ供給源トシテ極力之ヲ獲ム

関係地ニ民心ノ把握ニ努メ各地域原住民ノ民度ニ應ジ努メテ政治ニ参与セシム

(ロ)「ニューギニア」及前項以外ノ占領地ニ関シテハ別ニ定ム

(ハ)前記各地ニ於テハ当分軍政ヲ施ス

七、大東亜会議

以上各方策ノ具現ニ伴ヒ東亜十月下旬頃大東亜各国ノ指導者ヲ東京ニ参集セシメ完遂ノ決意ト大東亜共栄圏ノ確立トヲ中外ニ宣明ス

REEL No. A-1211

0199

アジア歴史資料センター

第二、昭和十八年十月二日大東亞政府連絡会議ニ於テ了解シタル大東亞戰爭完遂ノ為帝國ヲ中核トスル大東亞ノ諸國家結集ノ政略態勢ノ更ニ整備強化スルノ要アルニ鑑ミ右政略態勢ノ整備強化ニ資スル為概ネ左記要領ニ依リ大東亞会議ヲ開催ス

一、参集範囲

帝國
滿洲國
中華民國
「タイ」國

「ビルマ」國
「フイリピン」國

記、印度臨時政府成立ノ場合ハ其ノ代表者ヲ陪席者トシテ参加セシムルコトアルベシ

二、参集代表ノ構成

帝國　内閣総理大臣（大東亞大臣及外務大臣列席）
滿洲國　國務総理
中華民國　行政院院長
「タイ」國　総理大臣
「ビルマ」國　総理大臣（国家代表タル資格ニ於テ）

首班タル者カ行政府ノ

REEL No. A-1211
0178
アジア歴史資料センター

「フイリピン」國 大統領（行政府ノ首班タル資格ニ於テ）

各國代表ハ全權委任狀ヲ所持セス

各國代表ノ隨員ハ必要最小限ニ止ム

三、時期

昭和十八年十一月五日ヨリ二日間ト予定ス

四、場所

東京

五、議題

戰爭完遂ト大東亞建設ノ方針ニ關スル件

會議ニ於テ審議上宇國タル戰爭完遂ノ決意ト大東亞共榮圏確立ノ方針トヲ中外ニ闡明ス

註、一應ノ原案ハ我方ニ於テ用意スルモ事前各國側ノ意見ヲモ充分參酌シテ提案スルコト

六、議事日程其他

イ、議事日程

第一日　帝國總理大臣挨拶

議題ニ關スル各國代表所見前陳

第二日　議案審議及採擇

帝國總理大臣挨拶

ロ、用語

日本語ヲ正式用語トス但シ各國代表ノ發言ニ對シテ

REEL No. A-1211

0179

アジア歴史資料センター

ハ所要ノ飜訳ヲ附ス

3、議事進行、議決

議長ハ全會期ヲ通シ日本國代表ヲ推薦セシム

議決ハ全會一致トス

4、序次

國名ニ依ル イロハ順トス

會議ニ関聯アル行事ノ序次亦同シ

5、会議ニ関スル発言

議事ハ原則トシテ公開セズ

発表ハ会議後成ル可ク速ニ之ヲ行フ

6、招請状

招請状ハ十月中旬迄ニ発送スルコトトシ事前非式ニ内意ヲ通達ス

右招請状ニハ議題トシテ「戦争完遂ト大東亜建設ノ方針ニ関スル件」ヲ掲ケ各出先大使ヲシテ説明セシム

7、機密保持

発表アル迄極秘トシ特ニ防諜ニ留意セシム

REEL No. A-1211

0180

アジア歴史資料センター

第三、

大東亜会議開催ニ関スル帝國政府訓令

今般帝國ハ別電第　号ノ要領ニ依リ大東亜会議開催ノ方針ヲ決定セリ就テハ右別電要領ト共ニ左記諸点御兼知ノ上大至急本件会議参加方ニ関スル貴任國側ノ内意ヲ徴セラレ結果回電アリ度我方ニ於テハ右結果ヲ俟ツテ改メテ正式ニ招請状ヲ発スルコトヽ致度尚招請状所存ナルモ開催期日及準備ノ関係上本月中旬迄ニハ右招請状発送ノ遅ヒト致度ニ付前記内意取付ハ即急電クトモ本月十日迄ヲ期待スル次第ナリ

一、前記別電要領冒頭ニ記載セル本会議開催ノ目的ハ我方ノ狙ヒトシテ政略目的ヲ示シタルモノニシテ右ハ勿論其ノ儘先方ニ示スヘキモノニアラス貴使限リノ含ミニ止メラレタシ

先方ニ對スル本会議開催ノ趣旨ニ関スル説明トシテハ別電要領五、記載ノ本會議議題ト関聯シ概ネ「此ノ際大東亜各國ノ政府首脳者カ會合シテ戰争完遂ト大東亜建設ノ方針ニ関シ腹蔵ナキ意見ノ交換ヲ遂ケ其ノ協議ノ結果ヲ適当ノ形式ニ依リ中外ニ闡明スルコトハ大東亜各國自身及大東亜全体ノ為極メテ時宜ニ適スルモノト思考セラル」トノ趣旨ヲ以テ適宜説明セラレタシ

二、参集國及代表ノ構成ニ関シ

参集國及代表ノ構成ハ別電要領一及二、ノ通リト致度殊ニ参集代表ニ付テハ本件會議ノ意義及其ノ重要性ニ鑑ミ要領記載ノ政府首脳者カ本人自ラ出席スルコトヲ特ニ重視スル次第ナルニ付此点先方ノ同意取付方極力御盡力アリ度シ

帝國側ハ主催国タル関係モアリ代表タルヘキ総理ノ外大東亜大臣及外務大臣列席ノ筈ナリ

REEL No. A-1211
アジア歴史資料センター

隨員ニ付テハ諸般ノ便宜上必要最小限度ニ止ムル趣旨ト致度キモ具体的員数ニ付テハ各国夫々ノ事情モアルヘク要ハ右趣旨ノ下ニ各国ニ於テ適宜處置セラレタキ考ナリ、尤モ右員数ハ当方準備ノ都合モアリ成ルヘク早目ニ通報方希望ス

印度臨時政府成立ノ場合其ノ首班ヲ臨席セシムルノ件ハ之カ実現ノ遅ヒニ至ル様致度尤モ参集各国代表ト同資格ニ於テニアラス臨席者ノ資格ニ於テスルコトヲ考慮シ居レリ

尚会議ノ終末期近ク議案採擇等ノ段階ニ於テ在京枢軸國代表者ノ陪席ヲ考慮シ居レリ

三、會議期日ニ関シ

會議開催ノ期日ハ本件会議ノ趣旨ニ鑑ミ慎重考慮ノ結果十一月五日ヨリ二日間トセル次第ナリ参集各國側ニ於テ夫々ノ都合ハアルヘキモ我方トシテハ右開始期日ハ変更セサルコトト致シ

度キニ付右御含ミノ上先方ノ同意取付方御取計アリタシ

四、議題ニ関シ

議題ニ関シテハ別電要領五、記載ノ通ナルカ採択議案ノ内容及形式(共同声明等)ニ付テハ追テ我方草案ヲ事前各國側ニ内示シテ各國側意見ヲ徴シ会議前略ホ成案ヲ用意シ置キタキ意嚮ナリ但シ條約ノ締結ハ予想シ居ラス(従テ各國代表ハ全權委任状ノ所持ヲ要セス)

議題ニ関スル各國代表所見ニ関シテハ其ノ内容ノ飜訳、会議開陳時間等会議開催前ニ成ルヘク前后連絡打合セ置クコト

致度

五、會議不公開ノ原則ニ関シ

會議ハ原則トシテ公開セサルコトトスルモ審議終了ノ上最後ニ議案採択等ノ場合ニハ一定ノ制限ノ下ニ公開スルヲ適当ト

REEL No. A-1211
0182
アジア歴史資料センター

思考シ居トリ

六、席次ニ関シ

席次ニ関シテハ別電要領大ノ如記載ノ通国名ニ依リ「イロハ」順ト致度従来一般ニ政米等ニ於ケル国際会議ニ於テハ「アルファベット」順ニ依ル慣例アルコト御兼知ノ通ナル處本件会議ニ於テハ右「アルファベット」順ニ代ルニ「イロハ」順ヲ以テスルコトト適当ト認メタル次第ナリ

七、機密保持ニ関シ

本件ハ敵側ノ妨害介入等ヲ考慮シ厳ニ極秘裡ニ進ムル必要アルニ付機密保持ニ付テハ特ニ厳中方先方ニ注意シ置カレタシ

爾他ノ事項ニ関シテハ所要ニ應シ追電スヘシ

外務省

別電

省略 但第二「十月二日」大本営政府連絡會議了解ト

参照

外務省

REEL No. A-1211

0183

アジア歴史資料センター

第四、招請狀

一、菊号会議招請電訓（案）

往電合第　号ニ関シ

貴使ハ責任國政府外務大臣ヲ往訪ノ上帝國政府ノ訓令ニヨル旨ヲ明ニシ別電令外　号ノ趣旨ニ依ル正式招請狀ヲ手交相成度ニ

尚隨員ノ員數氏名略歴相成ル丈速ニ回電アリ度

追テ本件会議ノ應諾ヲ我方内部ノ取扱トニテハ菊号トニ居ル二件御含迄

別電令第　號

大日本帝國政府ハ貴國政府ニ幷ニ大東亜各國即チ貴國、中華民國、泰國　云々（当該國ヲ筆頭トシ他ハイ、ロ、ハ、順トス）ノ代表ノ参列スヘキ会議ノ開催ヲ左記ニヨリ提議スルト共ニ爰國政府代表トシテ　○○○閣下ノ出席ヲ招請スルノ光榮ヲ有ス

一、大日本帝國政府ハ此ノ際大東亜各國ノ政府代表ニ関シ隔意ナキ意見ノ交換ヲ遂ケ其ノ協議ノ結果ヲ適当ノ形式ニ依リ中外ニ宣明スルコトハ大東亜各國自身及大東亜全体ノ為極メテ時宜ニ適スルモノト確信ス

REEL No. A-1211
0184
アジア歴史資料センター

二、大日本帝國政府ハ本會議ヲ大東亜會議ト呼称シ昭和十八年（中華民國何年等ト各國別ニ併記ス）十一月五日ヨリ二日間東京ニ於テ開催スヘキコトヲ提案ス

三、大日本帝國政府ハ本會議ヲ大東亜會議ノ議題トシテ「大東亜戦争完遂ト大東亜建設ノ方針ニ関スル件」ヲ提案ス

右議題ニ関シテハ必要ニ應シ貴國駐劄大日本帝國特命全權大使ヲシテ臨時帝國政府ノ詳細ナル意嚮ヲ連絡セシムヘシ

四、大日本帝國政府ヨリハ本會議ニ代表トシテ東條内閣総理大臣出席スル外青木大東亜大臣及重光外務大臣列席スヘシ

大日本帝國政府ハ貴國政府カ鉄叙上帝國政府ノ提議ヲ諒承セラレ本招請ヲ受諾セラレムコトヲ希望ス

第五、大東亜會議事務局

（一）大東亜会議事務局ハ各國代表ノ随員各二名及必要ナル補助係官ヲ以テ組織ス

一、大東亜会議事務局構成

二、大東亜会議事務局ハ第一回ノ會合トシテ十一月三日午前十時帝國議會議事堂ニ於テ開催ス

三、右會合ニ於テ左記事項ニ付打合ヲ行フ

（イ）議事日程細目

（ロ）各國代表演説草案

（ハ）大東亜會議宣言案

（ニ）第二日午前中ニ於ケル各國代表発言要旨

（ホ）発表ニ関スル事項

（ヘ）議場使用ニ関スル事項

REEL No. A-1211
0185
アジア歴史資料センター

(ト) 其他必要ナル事項

(ニ) 大東亜会議事務局員名簿

日本國
大東亜省 総務局長 竹内新平閣下
外務省 政務局長 上村伸一閣下

中華民國
國民政府 行政院秘書長 周隆庠閣下
國民政府 行政院副秘書長 薛逢元閣下

タイ國
外務省東方政務局長 ウイスート、アンタユーク閣下
外務省一等書記官 ウオンサヌワット、テワクン閣下

滿洲國
外交部政務司長 大江晃閣下
外交部理事官 鄭隤數氏

REEL No. A-1211
0186
アジア歴史資料センター

フイリピン國

秘書

ホセーベ、ラウレル氏

ビルマ國

外務次官

ウー、ミユエ、ボウ閣下

(三) 十一月三日事務局會議ニ於ケル打合事項

一、第一日議長推薦ノ際「タイ」國代表ハ日本國代表任命ノ動議ヲ提出スベシ

二、「フイリピン」國代表ハ上記動議ニ賛成スベシ

三、議案採決直後滿洲國代表ハ將來ニ於ケル同樣ノ会議ノ召集ニ対スル希望ヲ表明スベシ

四、滿洲國、代表ニ依ル前記陳述ニ引續キ「ビルマ」國代表ハ自由印度假政府ニ支援ヲ與フベキ旨ノ發言ヲ行フベシ

五、「ビルマ」國代表ニ引續キ自由印度假政府首班ハ發言ノ機會ヲ與ヘラルベシ

六、閉會挨拶ニ次ギ中華民國代表ハ議長ニ對シ感謝ノ辞ヲ述フベシ

REEL No. A-1211

0187

アジア歴史資料センター

第六、大東亜會議ノ開催

一、會議ノ次第

一、既ニ第一項ニ於テ述ヘタル如ク大東亜ノ諸國カ古クヨリ國ヲ成スト雖
又新興國家トシテ誕生セルモノトヲ向ハス各々其ノ所ヲ得相倚リ
相扶ケテ共存共栄ノ秩序ヲ建設セントスル東亜覺醒ノ歴史的
展開ハ今ヤ亜細亜黎明ノ一大現実トナリツツアリ。然ルニ米英ハ
大東亜ニ対スル非望ヲ飽クマデ維持達成セントスルノ迷夢ヨリ
醒メス、其ノ露骨ナル物的戦力ヲ恃ミトシテ執拗ナル反攻ヲ繰返
シ戦局ノ前途ハ逐次重要ナル段階ニ到達スルニ至レリ大東亜
會議ハ実ニ以上ノ如キ情勢ノ下ニ昭和十八年十一月五日大日ノ兩
日ニ亘リ東京ニ於テ開催セラレタルモノナリ。
今其ノ會議次第ヲミルニ次ノ如シ。

(イ) 各國代表及列席者

日本國

代表 内閣總理大臣 東條英機閣下
海軍大臣 嶋田繁太郎閣下
大東亜大臣 青木一男閣下
外務大臣 重光葵閣下
内閣書記官長 星野直樹閣下
情報局總裁 天羽英二閣下
外務次官 松本俊一閣下
大東亜次官 山本熊一閣下
大東亜政務局長 上村伸一閣下
陸軍省軍務局長 佐藤賢了閣下
海軍省軍務局長 岡敬純閣下

REEL No. A-1211
0188
アジア歴史資料センター

大東亜省総務局長　竹内新平閣下

中華民國

代表

國民政府行政院長　江精衛閣下

國民政府行政副院長　周佛海閣下

國民政府外交部長　褚民誼閣下

國民政府軍事委員會委員　陳昌祖閣下

國民政府行政院秘書長　周隆庠閣下

國民政府行政院副秘書長　薛逢元閣下

タイ國

代表　内閣総理大臣代理
兼内閣書記官長陸軍少將
外務大臣、外務代理大臣
兼内閣書記官長　ワンワイタヤコン殿下

外務省東方政務局長　チャイ、プラテイパセーン閣下

外務省一等書記官　ウオンサヌワット、テワクン殿下

陸軍少佐　アーツ、チャラーンシン氏

満洲國

代表

國務総理大臣　張景惠閣下

外交部大臣　李紹庚閣下

特命全權大使
外交部政務司長　王化一閣下

外交部政務司第一課長
兼総務廳秘書官　大久保利通閣下

総務廳秘書官　松本益雄閣下

高丕琨閣下

REEL No. A-1211
0189
アジア歴史資料センター

外交部理事官　鄭隲數閣下

フイリピン國
代表　大統領　ホセ、ペ、ラウエル閣下
外務大臣　クラロ、エム、レクト閣下
土木交通大臣　キニテイン、パレデス閣下
國會議員　ホセ、ベ、ラウエル氏
大統領秘書

ビルマ國
代表　内閣總理大臣　ウー、バー、モ閣下
協力大臣　ウー、トンオン閣下
特命全權大使　ウー、テー、モン閣下
外務次官　ウー、ニエ、ボン閣下

内閣總理大臣秘書　ウー、ニユン、ハン
内閣總理大臣秘書官　ボー、ヤン、ナイ
陸軍中佐

尚ホ陪席者トシテ自由印度假政府「ボース」首班閣下列席セリ

REEL No. A-1211
0190
アジア歴史資料センター

(ロ) 議題

戰爭完遂ト大東亜建設ノ方針ニ関スル件

(ハ) 議事日程

第一日（十一月五日 金曜日）

開會

議長推薦

各國代表ノ一般的所見開陳

第二日

議案審議

日本國代表挨拶

閉會

二、大東亜共同宣言ノ採択

右会議次方ニ於テ明ナル如ク大東亜ニ國ヲ為ス各國代表者一堂ニ會シテ大東亜戰爭ノ完遂ト大東亜設ノ方針ニ関シ隔意無キ協議ヲ遂ケ以テ一致セル信念ト自覚ノ下ニ相似同シテ本戰爭ノ完遂ト東亜新秩ノ建設ニ邁進センコトヲ期シタル本会議ハ史上屢々其ノ例ヲ見タル如キモノヽ利的利害打算ニ基キ、戰後ノ分前ノ多少ヲ論議スル如キモノニ非ス、或ハ國際聯盟ノ如ク各國平等ノ偽裝ノ下ニ実ハ二ノ強國ノエノ繁栄ト福祉ヲ増進センカ為ノ会議ニモ非ス、即チ大東亜戰爭ノ完遂ト大東亜建設ノ方針ニ関シ各國カ抱懷セル抱負ト信念トヲ何等ノ拘束ヲモ受ケス、最モ忌憚ケタル雰囲気ノ下ニ自由ニ表明シ、各國ノ共同ノ使命達成ニ資セントスルヲ目的トシタルモノナリ。斯クテ隔意無キ意見

REEL No. A-1211

0191

アジア歴史資料センター

交換ハ関係各國ノ大東亜戦爭完遂ノ決意並ニ大東亜建設ノ方針延テハ世界進運ノ貢献ニ対スル理想ト熱意トカ其ノ根本ニ於テ完全ニ一致セルコトカ相互ニ確認セラレ、各國カ益々相信シ相和シ相倚リ相扶ケテ其ノ共同ノ理想及共通ノ使命達成ニ向テ邁進スルノ決意ト確信ヲ新ニスルコトヲ得タルカ、大東亜共同宣言ハ正ニ斯カル共通ノ信念ト見解トノ顯レカ各國代表ニ依リ萬場一致採択セラレタルモノニシテ、其ノ意義眞ニ大ナルモノアリト言ハサルヘカラス。

右大東亜共同宣言採擇ニ付キ大東亜会議事務局ハ次ノ如キ發表ヲ行ヒタリ。

外務省

大東亜會議事務局發表

昭和十八年十一月五日及六日ノ両日東京ニ於テ大東亜會議ヲ開催セリ同会議ニ出席ノ各國代表者左ノ通リ

日本國	内閣総理大臣　東條英機閣下
中華民國	國民政府行政院長　汪兆銘閣下
「イ」國	内閣総理大臣「ピー・ビブン・ソンクラム」元帥閣下ノ名代トシテ「ワンワイタヤコーン」殿下
滿洲國	國務総理大臣　張景恵閣下

外務省

REEL No. A-1211
0192
アジア歴史資料センター

「フィリピン」共和國　　大統領「ホセ・ペ・ラウレル」閣下

フビルマ　　内閣總理大臣「バー・モウ」閣下

同會議ニ於テハ大東亜戰爭完遂ト大東亜建設ノ方針トニ関シ各國代表ハ隔意ナキ協議ヲ遂ゲタル處全會一致ヲ以テ左ノ共同宣言ヲ採択セリ

大東亜共同宣言

抑々世界各國ガ其ノ所ヲ得相倚リ相扶ケテ萬邦共栄ノ樂ヲ偕ニスルハ世界平和確立ノ根本要義ナリ

然ルニ米英ハ自國ノ繁栄ノ為ニハ他國家他民族ヲ抑圧シ特ニ大東亜ニ対シテハ飽クナキ侵略搾取ヲ行ヒ大東亜隷属化ノ野望ヲ逞ウシテ遂ニハ大東亜ノ安定ヲ根柢ヨリ覆サントセリ大東亜戰爭ノ原因茲ニ存ス

大東亜各國ハ相提携シテ大東亜戰爭ヲ完遂シ大東亜ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放

シテ其ノ自存自衛ヲ全ウシ左ノ綱領ニ基キ大東亜ノ建設ニ以テ世界平和ノ確立ニ寄與センコトヲ期ス

一、大東亜各國ハ協同シテ大東亜ノ安定ヲ確保シ道義ニ基ク共存共栄ノ秩序ヲ建設ス

一、大東亜各國ハ相互ニ自主獨立ヲ尊重シ互助敦睦ノ実ヲ擧ゲ大東亜ノ親和ヲ確立ス

一、大東亜各國ハ相互ニ傳統ヲ尊重シ各民族ノ創造性ヲ伸暢シ大東亜ノ文化ヲ昂揚ス

一、大東亜各國ハ互恵ノ下緊密ニ提携シ其ノ経済発展ヲ圖リ大東亜ノ繁栄ヲ増進ス

一、大東亜各國ハ萬邦トノ交誼ヲ篤ウシ人種的差別ヲ撤廃シ普ク文化ヲ交流シ進ンデ資源ヲ開放シ以テ世界ノ進運ニ貢献ス

今其ノ共同宣言ノ内容ヲ概略スレバ左ノ如シ

REEL No. A-1211
0193
アジア歴史資料センター

一、宣言案ノ骨子

本共同宣言ノ構成ノ概略ニ付テモ述フレハ、先ツ第一段ニ於テ世界平和確立ノ根本要義ヲ掲ケ、第二段ニ於テ大東亜戦争ノ原因ヲ指摘シ、第三段ニ於テ、戦争完遂ト大東亜建設ノ決意ヲ示シ、第四段ニ於テ大東亜建設ノ綱領ヲ掲ケタリ。

綱領ニ於テハ第一項ニ共存共栄ノ原則第二項ニ独立親和ノ原則第三項ニ文化昂揚ノ原則第四項ニ経済繁栄ノ原則第五項ニ世界進運貢献ノ原則ヲ証ヒ、而シテ第一項ハ大東亜建設ノ大本ヲ示シ、第二項乃至第四項ハ大東亜各國相互間ノ関係ヲ証ヒ、第五項ハ大東亜ノ大東亜以外ノ諸國ニ対スル関係ヲ明カニセリ。

以上宣言ノ狙ヒトスル所ハ今次戦争ノ正義性ヲ認識セシメ、大東亜ニ於ケル血縁的関係ニ於テノ共同ノ運命觀ヲ啓培シ、大東亜ノ結集ニ資スルト共ニ重慶ノ反省ヲ促シ、併セテ米英ニ対スル政治攻勢ノ具タラシメントスルニ在リ。従テ措辞等ニ付テモ右考慮ヨリ特別ノ注意ヲ拂ヒタリ。尚ホ本宣言ノ作成ニ当リ門戸閉鎖ノ感ヲ与ヘサル様留意スルト共ニ蘇聯関係ヲモ考慮セリ。

二、各説

(一)第一段ニ於テハ世界各國カ各々其ノ所ヲ得テ、相倚リ相扶ケテ万邦共栄ノ樂ヲ倶ニスルコトカ、世界平和確立ノ根本要義ナル所以ヲ明カナラシメタリ。

(二)第二段ニ於テハ世界ノ平和確立ノ根本要義カ右ノ如クナルニ拘ラス、米英ハ自國ノ繁栄ノ為ニハ敢テ他國家他民族ヲ抑圧スルモ顧ミサル利己的独善的世界制覇ノ政策ヲ実施シ来リ、特ニ大東亜ニ對シテハ飽クナキ侵略搾取ヲ行ヒ大東亜隷属化ノ野望ヲ逞シウシ、遂ニハ大東亜ノ安定ヲ根柢ヨリ覆サントスルニ至ル歴史的事実ヲ究明

三、大東亜戦争ノ原因ヲ明カナラシメタリ。

REEL No. A-1211
0194
アジア歴史資料センター

(三) 第三段ニ於テハ大東亜各国ハ斯クノ如キ動因ニ依リ発生セル大東亜戦争ノ本質ヲ認識シ、相提携シテ大東亜戦争ヲ完遂シ大東亜ヲ米英ノ極楽ヨリ解放シテ其ノ自存自衛ヲ全ウシ、以下第四段ニ示ス如キ大東亜建設ノ綱領ニ基キ大東亜ノ建設ヲ、以テ世界平和ノ確立ニ寄与セントスルノ決意ヲ明カナラシメタリ。

(四) 第四段ノ建設綱領ノ内容ハ

(イ) 共存共栄

(ロ) 本原則ニ於テハ夢平和確立ノ根本要義ニ則ル大東亜建設ノ大本ヲ示サントセリ、即チ大東亜ノ各国カ反ユル点ニ於テ難シ難キ緊密ナル関係ヲ有スルコトハ否定シ得サル事実ニシテ、斯カル関係ニ立ツ大東亜ノ各国カ共同シテ大東亜ノ安定ヲ確保シ共存共栄ノ秩序ヲ建設スルコトハ各国共同ノ使命ニシテ、世界平和確立ノ最モ有効且実際的ナル方途ナルベキ所以ヲ明カナラシメタリ。而シテ大東亜ニ於ケル共存共栄ノ秩序大東亜国有ノ道義的精神ニ基

クモノニシテ、此ノ点自己ノ繁栄ノ為ニハ不正、欺瞞、搾取ヲ辞セサル米英本位ノ舊秩序ト根本的ニ異ル所以ヲ明カニセリ。

(ロ) 獨立親和ノ原則

本原則ニ於テハ大東亜ノ各国ハ互ニ其ノ自主独立ヲ尊重シ、互助敦睦ノ実ヲ挙ケ全体トシテ親和ノ関係ヲ確立セントスル期スルモノナルカ親和ノ関係ハ相手方ヲ単ニ手段トシテ利用スルコトナク、飽迄モ相手方ノ自主独立ヲ尊重シ、他ノ繁栄ヲ助クルコトニ依ツテ自ラモ繁栄シ、自他共ニ本来ノ面目ヲ発揮スル所ニシテ生シ得ヘキ所以ヲ明カナラシメタリ。

(ハ) 文化昂揚ノ原則

由来大東亜ニハ優秀ナル文化存在シ殊ニ大東亜ノ精神文化ハ最モ崇高幽玄ナルモノナリシモノナリ、大東亜各国カ其ノ本然ノ精神文化ヲ長養醇化シテ、之ヲ廣ク世界ニ及ホスコトハ物質

REEL No. A-1211
0195
アジア歴史資料センター

文明ノ行詰リヲ打開シ、人類全般ノ福祉増進ニ寄与スヘキハ明ナル所ナリ。即チ本邦則ハ斯カル文化ヲ有スル大東亜ノ各國カ互ニ其ノ光輝アル傳統ヲ尊重スルト共ニ久シキニ亘ル米英ノ抑圧ニ依リ沒滅ヲ重ネタル各民族ノ創造性ヲ回復伸揚シ、以テ大東亜ノ文化ニ益々昂揚スヘキコトヲ明カナラシメタリ。

(二) 経済繁栄ノ原則

大東亜ハ多年米英ノ搾取ノ對象トナリ其ノ個有ノ経済カヲ自己ノ本然ノ發展ニ寄与セシムルヲ得サシナリ。大東亜ノ復興及隆ヲ期セントセハ、経済的ニモ亦其ノ自主性ヲ回復シ相倚リ相扶ケテ其ノ繁栄ヲ期スルコト必要ニシテ、即チ大東亜ノ各國ハ民生ノ向上ト國力ノ充実ヲ図ル為互惠ノ下緊密ナル提携ヲ行ヒ共同シテ大東亜ノ繁栄ヲ増進スヘキモノナルコトヲ明カニセリ。

(ホ) 世界進運貢献ノ原則

斯クノ如クニシテ建設セラルヘキ大東亜ノ新秩序ハ排他的獨善的ノモノニ非スシテ、廣ク世界各國トノ間ニ政治的ニモ経済的ニモ將又文化的ニモ積極的ニ協力ノ関係ニ立ツヘキモノナリ。其ノ本質トスルモノニシテ、即チ大東亜各國ハ万邦トノ交誼ヲ篤ウシ、人種的差別ヲ撤廃シ、普ク文化ヲ交流シ、進ンテ資源ヲ開放シ、以テ世界ノ進運ニ貢献スヘキモノナルヲ明ナラシメ、此ノ点ニ自由平等ヲ唱ヘツツ他國家他民族ニ對シ抑圧ト差別トヲ以テ臨ミ、他ニ門戸開放ヲ強ヒツツ自ラハ広大ナル土地ト資源トヲ壟断シ他ノ生存ヲ脅威シテ顧ミス世界全般ノ進運ノ阻碍ニ来レル米英ノ舊秩序ト其ノ本質ニ於テ全ク趣ヲ異ニセル所以ヲ明カナラシメタリ。

REEL No. A-1211
0196
アジア歴史資料センター

REEL No. A-1211

アジア歴史資料センター

S 17.0.0-43

S 17.0.0-43

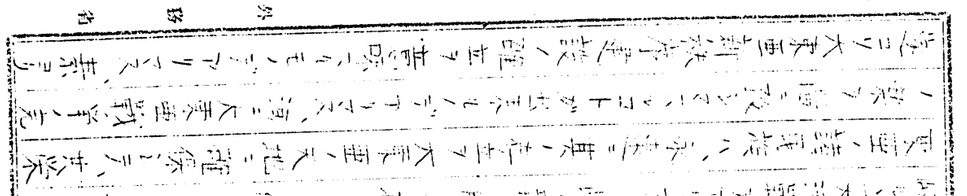
侵略シ、経済的ニ其政治、更ニ教育文化ノ美名ニ基キテ民族性ヲ失ハシメ、相互ニ相結束スルヤウ、其ノ非ヲ理ノ運成ヲ図ルマノデアリマス、斯クテ亜細亜ノ諸国並諸民族ハ、皆ニ其ノ主ニ成ル、其ノ安定ヲ撹乱サレ、民生ハ其ノ本然ノ姿ヲ抑圧セラレテ今日ニ至ツタノデアリマス、彼等ノ呼号スル門戸開放、機会均等主義モ、東亜ヲ植民地視スル東亜観念ニ基ヒマシタモノデアリマシテ、実ハ欧米ガ東亜侵略ノ未曾有ノ遂行ノ為ノ更宜手段ニ過ギナイノデアリマシテ、欧米ハ自国ノ領土ニ於テハ、東亜ノ諸民族ニ対シテ常ニ門戸ヲ閉鎖シ、機会ヲ与ヘナカツタノミナラズ、物心的搾取ヲ恣ニシ、之ヲ以テ自国ノ繁栄ヲ図ツタノデアリマス。

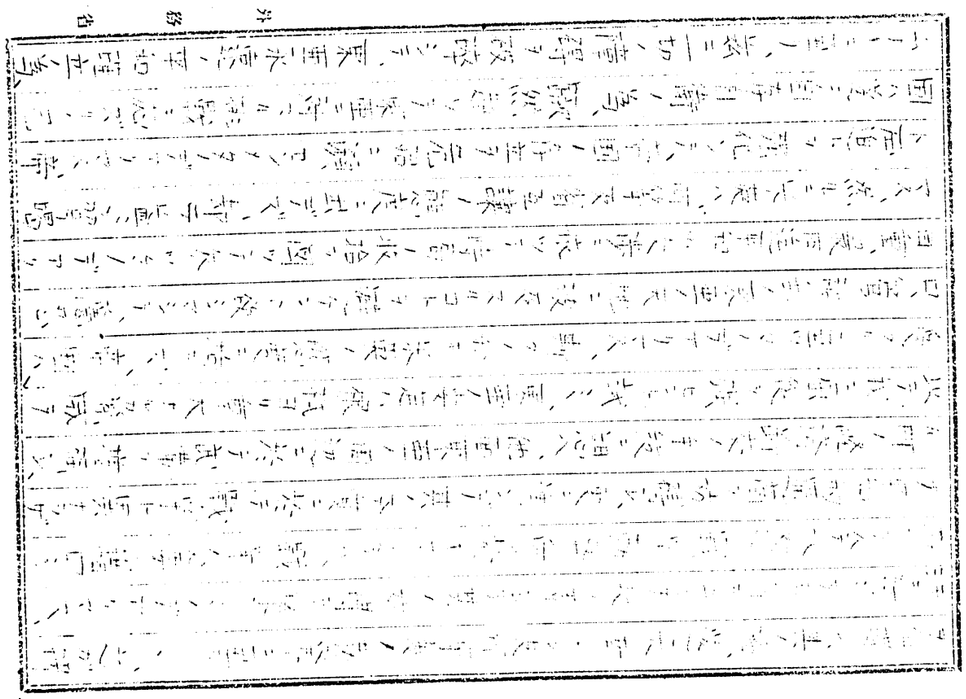
而ニ本戦争ノ原因ノ世界的両覇ノ野望ニハ、人類ノ災厄、禍根ト謂フベキモノデアリマス

顧ミルニ東亜ノ諸国諸民族ノ間ニ於テ、解放ノ義挙ノ起ツ

マコトハ、一再ニ止マラナカツタノデアリマスガ、或ハ其ノ家長会ノ或ハ武力威圧ニ依リ、或ハ彼等ノ異民族統御ノ常套手段デアル所ノ悪策弾圧ニ離間政策ニ依リ、ソノ大部ニ帰シタノデアリマス、此ノ間ニ於テ日本ノ運命ハ実ニ重大ニ至リマシテ、最モ好マシクナイ事態ニ陥リマシタノデアリマス、遂ニ於テハ、一方ニ於テ亜細亜ノ日本帝国ノ隆盛ヲ恐レ、或ハ東亜ノ諸民族ノ解放ノ義挙ニ対シテ、其ノ反抗ノ為ニ、東亜ノ安定ヲ撹乱シ、民生ノ安定ヲ妨ゲ、東亜ノ繁栄ヲ阻害シ、

REEL No. A-1211





アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

REEL No. A-1211

外務省

S 17.0.0-43　3.15

然ルニ其ノ出ッシタ時ニ於テ敵ガ全ク手ヲ上ゲテ降参スルコトハ絶対ニアリマセズ

然ルニ各位ニ依ッテ代表セラレテヰル所ノ大東亜諸国モ亦皆同ト信ズル

其ノ全力ヲ挙ゲテ始終米英ノ支配ヲ撃破シ以テ大東亜永遠ノ安定

ヲ図ラントスル決意ノ堅固ナルモノアルコトヲ私ハ確信スルモノデアリマス

外務省

S 17.0.0-48　3.15

デアリマス、大東亜ノ諸国民ハ、其ノ全力ヲ尽シテ之ヲ徹底的ニ改造シ、更ニ

強化シ、以テ戦争ヲ完遂シテ、大東亜永遠ノ安定ヲ確保

シナケレバナラナイノデアリマス、此ノ秋ニ当リマシテ、皆国ハ総戦ニ邁進

セル戦略的優位ニ立ッテ、雄渾ナル作戦ヲ続行シテ居ルノデアリマス、而シ

テ国内ニ於キマシテハ此ノ雄渾ナル作戦ニ応ズベキ、国内態勢

ヲ整備シ、特ニ最近ニ於ケル決戦ノ日ノ眼ニ一意専心、必勝ノ確信ヲ

強化スル為ニ、総力ヲ挙ゲテ此ノ大戦争完遂ニ邁進致シテ居ルノデ

アリマス、

大東亜ニ於ケル共存共栄ノ理念ハ、大東亜固有ノ道義的精神ニ基クベキモノデアリマシテ、彼ノ米英ニ於テ、自己ノ繁栄ノ為ニハ正義、敬譲、清取ヲモ敢テ辞セザル不義不公平ノ旧秩序トハ、根本的ニ異ナルモノデアリマス、大東亜各国ハ互ニ其ノ自主独立ヲ尊重シツツ、全体トシテ親和関係ヲ確立スベキモノデアリマス、親和ノ関係ハ、相互ノ尊重ニ基ク自主独立ヲ尊重シ、他ノ繁栄ニ貢献シ合フ自由ナル秩序ト言フモノデアリマス

由来大東亜ハ豊富ナル所ニシテ、生産ノ増強ニ資スベキモノデアリマス、今後愈之ヲ開発シテ、厚生ノ増進ニ及ボスコトハ、物質文明ノ行詰リ打開、人類共栄ノ福祉ニ寄与スルコト頗カラザルモノアリマス、新シキ文化ヲ有シマス各国ハ、相互ニ其ノ光輝アル傳統ヲ尊重致シマ

スルニ失シ、今日ノ如ク疲弊ノ極ニ陥リ、以テ大東亜ノ文化ヲ益々高揚シ、以テ大東亜ノ繁栄ヲ増進スベキモノデアリマス

更ニ大東亜ノ各国ハ、或ル国ノ国力ノ発展ヲ図ル為、互恵ノ下緊密ナル経済提携ヲ行ヒ、協同シテ大東亜ノ経済ノ開発ヲ図リ、以テ大東亜ノ繁栄ヲ増進スベキモノデアリマスガ、今后ハ経済的ニモ自主独立、相倚リ相扶ケテ其ノ繁栄ヲ期サナケレバナラヌト思フノデアリマス

翻ツテ世界ヲ見ルニ、大東亜ノ新秩序ハ、単ニ政治的ニモ、経済的ニモ、将又文化的ニモハナハダ厚々世界ノ進運ニ貢献スベキモノデアリマス、即チ自由平等ヲ唱ヘツツ、他国家、他民族ニシテ新興ト若クハ復興ヲ以テ臨ミ、他ニ門戸開放ヲ強ヒツツ、自ラハ広大ナル土地ト資源トヲ擅断シ、他ノ生存ヲ脅威シテ顧ミズ、世界全般ノ進運ヲ阻碍

REEL No. A-1211
0201
アジア歴史資料センター

[illegible]

[illegible]

[illegible]

アジア歴史資料センター

REEL No. A-1211

0 0 0 0

外務省

S 1.7.0.0 -48

352

外務省

S 1.7.0.0 -48

351

二、中華民國代表汪行政院長閣下ノ報告ノ概要

（十月五日）

世界史上偉大ナル意義ヲ有スル大東亜会議ガ、今回我ガ日本ノ首都ニ於テ挙行セラレタルコト、コレトモ相俟ツテ、只今天皇陛下ノ御親臨ヲ賜ハリマシテ、只今天皇陛下ノ御親臨ヲ賜ハリマシテ、大東亜ノ諸国ニ対シ、次ノ如キ宣言ヲ発シタルコトハ、誠ニ同慶ニ堪ヘナイ次第デアリマス。

本来ノ東亜侵略ハ、百年以前ニ開始セラレタルモノデアリマシテ、今ヤ新カナル姿ヲ以テ、東亜ノ諸国ニ対シ、政治、経済、文化、その他ノ方面ヲ通ジテ、日本ノ軍事力ヲ背景トシテ、侵略野心ノ抑制シ、東亜ノ隷属化ヲ図ルモノデアリマス、之ニ対シ、日本ハ東亜ノ諸国ニ対シ、新ニ日本ノ政策ヲ表明シ、東亜ノ諸国ニ対シ、新ニ日本ノ政策ヲ表明シ、東亜ノ諸国ニ於テ於ケル侵略勢力ハ政治的ニ、経済的ニ、文化的ニ

REEL No. A-1211

0020

アジア歴史資料センター

外務省

S 1.7.0.0 -48

355

外務省

S 1.7.0.0 -48

356

ツタノデアリマシテ、其ノ后国父孫先生ハ間モナク病魔ニ冒サレ、翌年三月十二日北京ニ於テ逝去セラレタノデアリマスガ、逝去ノ時ニ当リ遺嘱ヲ同志ニ遺サレ、同志ハ竟ニ此ノ遺志ニ従ヒ継続奮闘シ、以テ其ノ貫徹ヲ期セヨト申サレタノデアリマシテ、最モ下幸トスル所ハ、国父孫先生逝去后其ノ遺志未ダ実現スルコト能ハズ、日支ノ関係ハ好転ヲ見ザリシノミナラズ、却テ日増シニ悪化シ、遂ニ民国二十六年七月事変ノ発生ヲ見ルニ至ツタコトデアリマス、正ニ国父孫先生逝去后十二年目ニ当ツテ居リマス。

尚、日支ノ関係ガ次第ニ悪ク為ル為、本英ハ好機到レリトシ、挑撥離間ヲ図リ、日支事変ノ拡大延長ヲ策ツタノデアリマス、我等同志ハ、国父ノ遺志未ダ実現セザルヲ見、日支関係ノ日ニ悪化スルヲ見テ、痛心其ノ極ニ達シ、絶望ノ深淵ニ陥ラントシタノデアリマシタガ、幸ニ日本政府ハ事変ノ最短期間ニ打切ルベキ方針ヲ宣布セラレ、其ノ中ニ於テハ、日本ノ目的トスル所ハ中国ノ滅亡ニ非ズシテ中国ノ興隆

ヲ期ス、日本ハ中国ガ東亜建設ノ責任ヲ分担スベキコトヲ期待シ、之日本ガ中国ヲ援助スルコトハ我心シ、其ノ独立自主ノ願望ヲ達成センカルコトニ正シクコトヲ開始セラレマシタ、我々同志ハ、日本ガ斯クレ言葉ヲ宣布セラレタコトヲ聞テ、日支開係ノ方針並ニ国父ノ遺志ヲ実現スベキ絶好ノ機会ト信ジ、和平運動ヲ開始シタノデアリマシタ、之ハ代リタルモノ亡国ノ戦争ニ対シ、和平運動ヲ開始シ、[illegible]ニ、[illegible]デアリマス、繰テ国父孫先生ハ和平運動ノ為ニ奔走シ、[illegible]ノ為ニ奔走シ、[illegible]ノ為ニ奔走シ、[illegible]